

台湾観光

644

2025
NOV・DEC

日本語版
www.tva.org.tw

山林の中で

心と体を整える



台湾醤油のふるさと：西螺
冬の台北、3つのスープをめぐる旅
台湾人の恋愛支度、月下老人に祈る



Healing in Nature

《水の色

蘭陽三帖②

水之色——蘭陽三帖②
李敏勇 作



翠峰湖は冷やかな鏡である
霧の薄衣をまとう女である
彼女の素性は謎に包まれている
空の青は彼女の肌の色
林の緑は彼女の肌の色
あなたと彼女の邂逅は
草木が証人となり
その中に遊ぶ鴛鴦のつがいもまた
あなたがそっと彼女の名を呼べば
彼女はただ風のさざ波で応える
鳩の沢は細雨のなかでも温かく
あなたの全身を抱きしめる
彼女の懷に青空の温泉を映す
あなたは旅人のようであり
世にまみれた身体の痕跡を洗い清められた
野鳩が溪床にいるのを想像し
木陰でもクークーと鳴いている
地熱の白煙は霧の空気のなかに立ちのぼり
自然史の物語を語りつづける
そこではかつてタイヤルの人々が地を敷き、煮炊きをしていた
笑い声を残して
いまも溪水に波立っている

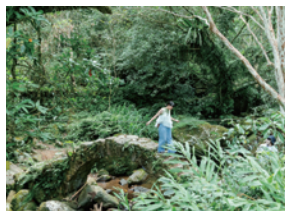
翠峰湖是一面冷冽之鏡
是穿著霧之薄紗的女子
她的身世成謎
天空的藍是她肌膚的顏色
林木的綠是她肌膚的顏色
你和她的邂逅
草木作見證
或許一對悠游其中的鴛鴦也是
你輕輕呼喚她的名字
她只回應風吹拂的漣漪
鳩之澤在細雨中也溫暖
擁抱你全身
在她懷中映照藍天的溫泉
你像一個旅人
被洗滌的是肉體在塵世的形跡
想像有野鴿子在溪床
也在林蔭間咕咕叫
地熱的白煙在起霧的空氣中飄升
訴說自然史的故事
那兒泰雅的族人曾鋪地煮食
留下歡笑聲
蕩漾在溪水間

Profile

李敏勇 リー・ミンヨン

台灣屏東人。1947年高雄で生まれ、大学時代は歴史を専攻。現在は台北市民。大学卒業後文学界に身を投じ、時誌「笠」の編集、「台湾文芸」社長、「台湾筆会」会長などを歴任。著書は『雲的語言』『暗房』『鎮魂歌』、中英対訳時集『思慕與哀愁』などの作品のほか、散文、小説、文学評論、社会評論集など90冊あまりを数える。巫永福評論賞、吳濁流新詩賞、頼和文学賞、第11回国家文芸賞、2022年第4回行政院文化賞受賞。





Cover Story

FEATURES

004 Cover Story

Healing in Nature 山林の中で心と体を整える



島旅デビュー

TRAVEL INSPIRATION

002 コラム
台湾・風景・詩022 島旅デビュー
台湾醤油のふるさと、西螺026 町さんぽ
山のふもとで文化を味わう町、草屯へ030 愛しの台湾味
台北の冬をあたためる
鶏・豚・ヤギ 三種のスープめぐり

町さんぽ

034 SPORTY TAIWAN
フルスイング！台湾の四大高級ゴルフ場探索036 コラム
台湾人の恋愛支度
月下老人に祈り、甘味で縁結び

愛しの台湾味

040 コラム
FOUNTAIN 新活水 第24回

会長・発行人／簡余晏
榮譽会長／葉菊蘭
副会長／蘇成田、凌瑞、莊豐如
編集顧問／鍾逸寧、陳婷妤、張仲宇、林詠欣
発行所／財団法人台湾観光協会
〒台北市忠孝東路4段285号8F-1
TEL +886-2-2752-2898
FAX +886-2-2752-7680
E-mail yasir@tva.org.tw
https://www.tva.org.tw

台湾観光協会東京事務所
〒日本国東京都港区
西新橋1丁目5-8 川手ビル3F
TEL +81-3-3501-3591
FAX +81-3-3501-3586
E-mail tyo@go-taiwan.net
台湾観光協会大阪事務所
〒日本国大阪府北区西天満4丁目14番3号6F
TEL +81-6-6316-7491
FAX +81-6-6316-7398
E-mail osa@go-taiwan.net

制作／故事 StoryStudio
編集長／徐豐恩
編集統括／林家豪
編集協力／劉亞涵、大洞敦史
デザイナー／謝喬仔
コンサルタント／鳳氣至純平
翻訳者／台湾北菱股份有限公司、
津村葵、賴英泰
プロジェクトマネージャー／冉揚、林宛蓁

〒台北市承德路一段8号7楼-1
TEL +886-2-2369-5966
E-mail contact@storystudio.tw
https://storystudio.tw/
印刷／經緯印藝實業有限公司
台湾観光庁
E-mail tad@tad.gov.tw
https://taiwan.net.tw
https://jp.taiwan.net.tw/

台湾観光 Facebook



台湾観光 Instagram



交通部観光署サイト





1

阿里山の日の出

光とともに進む…
一日の最初の朝日で心と体をリセット

2

淡蘭古道

冬にしか見られないススキの穂を探しに
歴史ある山道を歩く

3

三貂嶺

山林の秘境に佇む鉄道。滝、山里の風景

Healing in Nature

山林の中で 心と体を整える

一年の終わりが近づく冬、旅人を台湾の山林へと誘いたい。

静けさの中で自分と向き合い、澄んだ空気を胸いっぱいに取り込み、
木漏れ日の道を歩きながら、冬の清らかさと静寂を感じるひととき。

都市の喧騒から離れ、山の懷で心と体のリズムを整える、

新しい一年を迎える前に、

自分だけの台湾の冬の記憶を残してみませんか。

text / 編集部

photo / 林家賢、李盈靜、王士豪、Jimmy Yang、交通部觀光署阿里山國家風景區管理處、
阿里山林業鐵路及文化資產管理處、十字鳴心珈琲、東北角管理處、新北市觀光旅遊網

光とともに進む：一日の最初の朝日で心と体をリセット

阿里山の日の出

POINT!

阿里山の日の出
鑑賞POINT

| ベストシーズン |

11月～翌年4月

| 防寒対策 |

早朝は気温が10度以下になることも多いため、しっかりとした防寒服の着用をおすすめします。

| アドバイス |

前夜に阿里山森林園區内に宿泊すると、翌朝スムーズに日の出スポットに向かうことができます。

午前4時過ぎ、祝山線^{いひやま}の列車がゆっくりと動き出し、期待に胸を膨らませた旅行者達を乗せて、山の高みへと向かいます。冬の阿里山で、最も人々の心を打つ瞬間、それは初日の出です。空が次第に白み始めると、遠くの雲海がまるで大きく広げられた真綿のように幾重にも重なり合い、たなびいていくのが見えます。やがて最初の一筋の陽光が雲を突いた瞬間、山々と森全体が黄金色と淡いオレンジに染まり、朝の光の中で玉山連峰^{ぎょくさん}や塔山を見渡す人々のあちこちから歓声が上がり、陽光が次第に連なる峰を覆いつくして、新年の最初の1日が静かに幕を開けるのです。

台湾の人々にとって阿里山の日の出を眺めることは、年越しや新年を迎える際の王道といえる儀式的な旅の一つです。定番の祝山観日台は言わずもがなですが、近年ではより静かな雰囲気の高岳観日台や、360度見渡す限りのパノラマビューを誇る小笠原山を選ぶ人も増え、さらに、二万坪付近の展望スポットまでハイキングして、人混みを離れ静かに自分だけの新年の夜明けを楽しむ人もいます。この瞬間、どこから来た旅行者であろうと分け隔てなくこの山々に抱かれ、そのパワーを受け取り、新たに心と体をリセットすることができると言えます。



阿里山森林鉄道の旅

百年続く森林鉄道のリズムに揺られて

阿里山森林鉄道は、百年の歴史を誇るレトロな鉄道です。かつて、十字路駅〜屏遮駅区間の深刻な損傷によって15年もの間、運行を停止していましたが、現在は全線開通し、再び訪れる人々を幾重にも重なる山峰へと誘ってくれます。運行再開に伴い、森林鉄道では、人々に忘れられない旅の思い出を持ち帰ってもらうため、特別な観光列車を導入しました。

再塗装された旧車両「栩悦号」は、

台湾初のエコツアーリズム型観光列車です。外観は、阿里山を象徴する迎賓鳥である「アリサンヒタキ」の青・黄・白の羽色からインスピレーションを得てデザインされています。また、車内全60席には、個室タイプのシートと360度回転する展望席の2種類があり、大きなパノラマ窓からは標高の変化とともに移り変わる、幾重にも連なった森林の景観をじっくりと眺めることができます。さらに、列車にはプロのガイドが同乗し、高性能の音響システムを使ったリアルな自然音の再現も楽しめる他、地元のお茶・軽食なども提供され、視覚・聴覚・味覚の全てで自然と文化を体験できる贅沢な旅が味わえます。

最近、運行を開始した「福森号」は、紅ヒノキ等のヒノキ材を使用した天然の窓枠や内装が特徴で、ドーム型の天井と柔らかな照明が温もりのある雰囲気演出しています。座席は大きなバ

ノラマ窓の風景を楽しめるように配置され、車窓から山の風景を一望でき、車内には日本統治時代から戦後初期にかけて描かれた阿里山の絵画を展示する「絵画鑑賞スペース」も設けられており、乗客は画家の視点と共に森林鉄道を巡る旅を楽しむことができます。さらに「森」をテーマにした4つのルートも新たに展開し、福森号の芸術的な雰囲気を感じて楽しむ工夫が目白押しとなっています。そうして列車が二万平区間に差し掛かると、険しい地形のため、列車がジグザグに折り返しながら山を登り始め、列車がまるで壁にぶつかるような独特の体験が、旅にさらなる面白味を加えてくれます。

この特別仕様列車の旅は、単なる移動の手段ではなく、歴史と人文と自然をつなぐ特別な旅を楽しむためのよき手段です。栩悦号でも福森号でも、列車に揺られて、車窓の向こうの霧に煙る森林の海原を眺めながら進む旅は、阿里山ならではの唯一無二の特別な体験なのです。

阿里山
スペシャルテーマ列車
予約サイト

福森号



栩悦号



福森号



栩悦号



十字路駅

森林の奥深くに息づく日常の温もり



¹ 十字鳴心珈琲は鉄道沿いに位置し、旅人は香り高いハンドドリップコーヒーを味わいながら、列車と生活空間が交差する独特の魅力を間近で感じることができます。² 客室には大きな窓があり、部屋に座ったまま森の緑を一望できます。⁴ 夕食には季節の食材を使い、自然の味わいを大切にした料理が提供されます。

info

十字鳴心珈琲

● 嘉義県阿里山郷十字路4号

● 09:00-16:00、水・木曜定休

(不定休あり、SNSで確認ください)

Facebook



嘉義^{カギ}県阿里山郷の標高1534mに位置する十字路駅は、阿里山森林鉄道沿線の中で最も生活感溢れる集落の一つで、かつては伐採作業の重要な拠点であり、多くの古道が交差する交通の要衝でもあったことから、「十字路」と名付けられました。その後、道路の開通や産業の移転などの変化によって、村は次第に衰退していきましたが、2017年に森林鉄道の運行が再開され、秘境のかつての小さな駅に、再び人々の足音が戻ってきました。

十字路の最初にして唯一のカフェ

近年、故郷へ戻って暮らす若者たちも増えてきました。十字路で育った呉孟儒^{ウーモンジュ}さんは自宅のリビングを改装し、現在の「十字鳴心珈琲」をオープンしました。店名は、店内に貼っている手書きの詩「欲待松風鳴、焙啡至客心（松風の響きに焦がれつつ、焙煎珈琲は客心に至る）」から名付けられました。呉孟儒さんはハンドドリップ珈琲の販売だけでなく、パリスタとして地域に根ざした活動も行っていますが、コーヒーの産地としても名高い阿里山で採れるコーヒーの多くは農家が自ら生産・販売しており、一般の消費者への浸透にはほど遠いイメージでした。そこで彼は、「鳴心珈琲」で様々な農園の珈

琲豆を提供し、農家のプロモーションをサポートすると同時に、旅行者たちがこの山間の小さな駅で多種多様な珈琲の味わいを楽しめるようにしたのです。

呉孟儒さんの兄、呉孟桓さんも2023年の年末に故郷へ戻り、弟と共に「十字鳴心旅宿」を経営しています。宿の室内には大きな窓があり、豊かな緑と柔らかな光が差し込み、山の静けさと癒しを存分に感じることが出来ます。客室はわずか5室のみ。朝は通りを行き交う観光客も少なく、より穏やかで静かな時間を過ごすことができます。

現在の十字路駅では、平日は1日1本、週末や祝日は1日2本の列車が停車し、昼間は約2時間停車しています。旅行者はその時間を利用して線路沿いを散策し、雲霧に包まれた山間の暮らしを感じることが出来ます。そんな鉄道のすぐ傍で営まれる住民の人々の日常に触れると、阿里山が壮大な日の出や巨木だけでなく、人々の生活に寄り添う柔らかな一面を持っていることに気付かれます。そして、このような何気ない風景の中に、日常の温もりが息づき、それが訪れる人々の心を癒してくれるのです。



静寂の森林浴へ、紅ヒノキの森で自分自身と出会う

水山癒やしの歩道（ヒーリングトレイル）



森林セラピーの概念は1970年代の「自然療養林」に端を発し、ここから徐々に発展して、森林を健康回復や癒しの場とする「森林療法（Forest Therapy）」が確立されました。この50年の間に欧米やオーストラリア、アジア諸国などで、森林療法に関する研究が相次いで行われ、森林がストレスの緩和や健康促進に効果があることが次々と実証されてきました。現在では多くの国々がこれを保健システムに取り入れ、散策や深呼吸、瞑想などを通じて五感で自然とつながり、心と体のバランスを取り戻すことを人々に推奨しています。

台湾初の「森林セラピー」歩道

近年、台湾も森林セラピーの推進に積極的に取り組んでおり、林務局は台湾森林保健学会や専門チームと連携して、森林療法士の育成や癒し空間の整備を進めてきました。中でも豊かなヒノキ林と静寂に包まれた環境の阿里山は、最初のモデル地区として最適だったため、ここに台湾初となる「森林セラピー」に特化した水山ヒーリングトレイルが誕生しました。

この歩道は阿里山森林遊楽区ヨウラクチーの奥深くにひっそりと存在しています。沼平駅ジャウヘンから祝山方面へおよそ1kmほど歩くと、次第に携帯電話の電波が

届かなくなり、その代わりに、木の葉がこすれ合う音や森に響く鳥のさえずりがかすかに鼓膜を揺らし、ほのかに林の香りが漂ってくる、そんな自然の気配に包まれます。目の前に続く小径は、わずか860mと短いながらも、一般的なハイキングコースとは一線を画し、そのデザインには訪れる人々の感覚やペースに寄り添う工夫が随所に見られます。例えばこの区間は全て手作業で整備され、階段や排水溝の蓋に現地の木材や石を使用することで、自然の景観を損なわないよう配慮されており、歩道の幅も1.5m以内に抑えられ、人が押し寄せすぎないように造りになっています。さらに、高低差が1m未満の場所にはあえて手すりを設置しないなど、訪れる人々がより自由に、かつ直接自然と触れ合えるよう工夫されています。

ヒノキの森で心の巡礼

道中で一際目を引くのは、4本の木でできた柱で、それぞれに「闔とく」「吐はく」「蔵くら」「臥ふせ」という文字が刻まれています。この四文字は、まるで森と対話するための秘密の暗号のように、訪れる人々に静かに目を閉じて腰を下ろし、喧騒に満ちた感覚をひとまず「閉ざす」よう語りかけてくれます。そして、視界が開けた

水山ヒーリングルート ガイドツアー情報

(水山癒やしの歩道)

コースの全長

約2.5km (所要時間は約2時間半)

集合場所

阿里山ビジターサービスセンター

参加費用

週末 220～330元/人 (六歳未満は無料)、平日は団体予約制。参加人数が10名未満の場合、費用は2,200～3,300円となります。

予約サイン



場所に出て、谷に向かって大きく息を「吐」き、森の精気をたっぷり含んだ清涼な空気を吸い込めば、心と体がゆっくりと解きほぐされていくのを感じます。そこからさらに進むと、大きな空洞のある大樹が目の前に現れ、旅人はその前で胸の中に「仕舞って」いた想いをそっと樹に託し、心の重荷を下ろします。そして、最後に現れる円形の木製テラスが、そこに「臥せ」て、自然と呼吸を合わせ、そのリズムに身をゆだねるよう誘ってくれるのです。

また、一人旅の場合でも「森遊阿里山」アプリをダウンロードしておけば、柱に近くなると、Bluetoothで通知が届き、呼吸法やストレッチのガイドが届くので、いつでも癒しの時間に没入することができます。さらに地元ガイドのツアーを予約すれば、この土地の歴史についてもさらに深く知ることができます。例えば、かつてこの場所では広い範囲でわさびの栽培が行われており、品質も良く、日本へも輸出されていたことなどを知ることができる他、歩道の傍に現在でも僅かながらその名残のわさびの株を目にすることができます。終点にたどり着くと、壮観な「水山巨木」が迎えてくれます。これは十本のヒノキが一つになってできた樹齢千年の神木で、園内で最大の太さを誇る巨木として知られています。荘厳な気配を放ち力強くそびえるその姿を見ると、まるで時間の流れまでもがゆっくりと穏やかになるような心地がします。ぜひ、この巨木の前で足を止め、大自然と一体になりながら一緒に呼吸してみてください。



セラピストの案内のもと、五感を研ぎ澄ませながら自然の息づかいを感じることができます。

冬にしか見られないススキの穂を探しに歴史ある山道を歩く

淡蘭古道

晩秋から初冬にかけて、淡蘭古道^{タンランコドウ}北路にある草嶺古道は最もロマンチックな雰囲気にあります。山肌一面に広がるススキが一斉に風に揺れ、銀白と黄金色が交錯し、陽射しが織りなす雲影の動きに合わせて、まるで山道が柔らかな羽衣を纏っているかのようです。そこにそよ風が吹き抜けると、穂先がさらさらと鳴り、遠くから聞こえる波の音と山林の香りが重なり、まるで寄せては返す波のように動く絵の中を歩いている心地がします。

草嶺古道^{ソウリョウコドウ}は、淡蘭古道北路の中でも最も代表的な区間となっており、全長は約8km、豊かな歴史の記憶を秘めた山と海が織りなす壮麗な風景を楽しめ、勾配も穏やかなので、初心者にもぴったりのコースです。夏

の時期には、ハナシヨウガの香りが山全体に漂い、毎年9月になるとススキの花が咲き始め、10月には開花を続け、11月から12月にかけて満開を迎えます。古道沿い一面、ススキが織りなす銀色の海に姿を変え、中でも「虎字碑」^{フーズイヒ}から「埡口」^{ヤコウ}（峠）にかけての一带は特に美しく、ススキ観賞のベストスポットとして知られています。また、古道の最高地点にある峠の展望亭からは、東北角海岸や亀山島の壮大な景色を遠くに望むことができます。青い海岸線と白金の草の波が見事に調和し、壮麗な風景が広がります。この山一面に広がる銀白の花の海こそ、草嶺古道を象徴する最もロマンチックで幻想的な風景なのです。

POINT!

ススキ観賞のワンポイント アドバイス

この区間の古道は山風が非常に強い
ため、暴風ジャケットなどの防寒対策を
おすすめします。また、午後の陽射し
が斜めに差し込む時間帯に訪れると、
光と影がススキの波間に差し込み、より
幻想的な風景を楽しむことができます。

ソウレイコドウ
草嶺古道

| コースの全長 |

約8.5km

| 所要時間 |

約4時間

| アクセス方法 |

1. 電車で福隆^{フクロウ}駅まで行き、バスに乗
り換え「遠望坑^{エンボウキ}街口」下車、徒歩で
登山口へ。
2. 電車で「大里^{オホリ}駅」へ行き、そこ
から徒歩約10分で登山口に到着。



百年の山道「淡蘭古道」を巡る

初訪者におすすめの4ルート

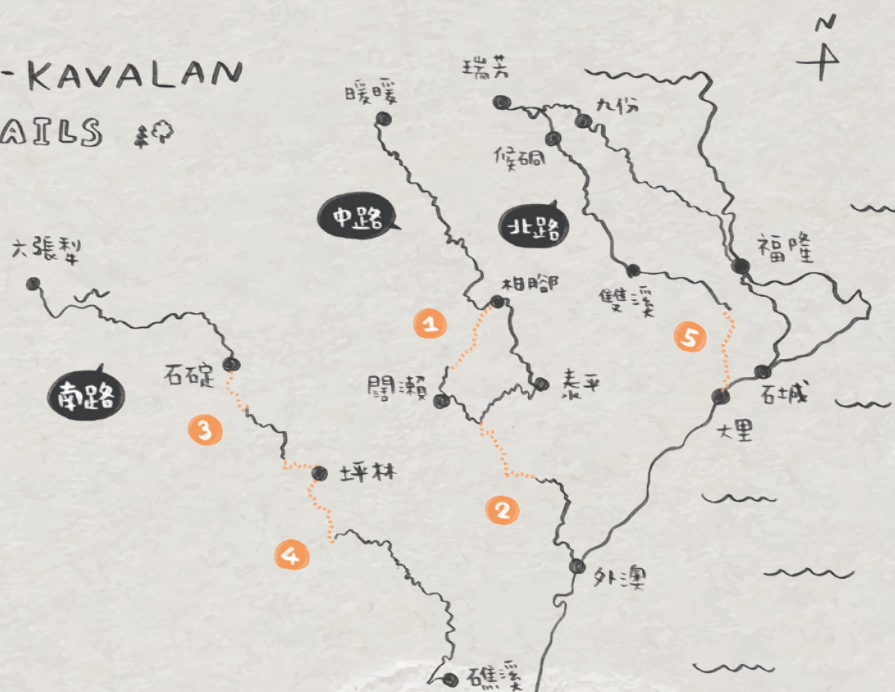
淡蘭古道は、台湾で初めて整備された代表的な長距離歩道として知られ、全長は200 km以上に及びます。「淡」は淡水^{タンスイ}地域を、「蘭」は宜蘭^{イラン}地域を指し、その歴史は19世紀にまでさかのぼります。現在の基隆^{キルン}、宜蘭、新北、台北を横断し、「北路」「中路」「南路」の3大ルートに分かれ、さらに複数の古道区間に細分化され、台北と宜蘭を結ぶ重要な山道としても利用され続けています。沿道の地形は多様で変化に富んでおり、基隆火山群から台北盆地、双溪丘陵^{シュンサイキョウリョウ}、蘭陽平原へと続き、自然・歴史・人文が織りなす風景を形成しています。

この古道は山と海を横断し、かつては先住民の開拓や物資輸送、商人や旅人の往来に欠かせない重要な道で、茶葉の貿易や様々な民族交流の歴史を宿し、台湾の山林における交通の変遷を見守ってきた歴史の証人でもあります。しかし時代の移り変わりとともに、公道や鉄道にその役割を譲り、古道は一時的に廃れてしまいましたが、近年、修復と整備が進められ、淡蘭古道は今や文化の深みと自然の魅力に満ちた台湾屈指のハイキングルートとして蘇りました。本稿では、淡蘭古道を初めて訪れる方にぴったりの4つのルートを厳選し、百年の時を刻む山道の時空の旅へとご案内します。



TAMSUI-KAVALAN
TRAILS

- 1 中坑古道
- 2 灣潭古道
- 3 烏塗溪古道
- 4 鯉魚堀溪步道
- 5 草嶺古道



中路

中坑古道：茶の里の足跡を巡る、木陰に覆われ蛇行する山道

新北市双溪区にある中坑古道は、かつて茶商人たちが淡水と宜蘭を行き来する際に利用した、重要な商業道路でした。登山口は中坑橋からスタートし、前半は溪流沿いに進んでいきます。途中、せせらぎの音に包まれながら、百年の歴史を持つ福德祠や、素朴な石造りのアーチ橋が点在するのを見れば、古道ならではの歴史の息吹を感じることが出来ます。そして後半は、一転して開けた棚田の草原が広がり、運が良ければ、のんびりと草を食んだり水浴びをして涼んでいる水牛に出会えるかもしれません。また、カエルの形にそっくりな「カエル石（青蛙石）」も見どころの一つで、このルートで最も人気のスポットとなっています。

この古道は、原始的な土の道や手作業で積まれた石段、さらに石から石へと渡り歩く沢など、バラエティに富んだ小径が続きます。特に夏は涼しさを感じられるルートとなっており、森林浴をしながら森の精気を存分に浴びながら歩くことができ、途中には古い家屋の壁や垣根なども残され、静かにかつての繁栄を物語る遺構を目にすることが出来ます。終点である中坑頭の鞍部は、複数の古道が交差する要所です。淡蘭古道

中路

灣潭古道：老若男女に優しい溪流沿いの秘境ルート

が辿ってきた歴史の流れを肌で感じることができると同時に、のどかな田園風景や豊かな山林の自然の景色も満喫でき、淡蘭中路の魅力を知ることができる理想的なルートです。

坪林と双溪の境界に位置する灣潭古道は、灣潭溪に沿って緩やかに続くルートで、その穏やかな勾配から、5歳から99歳までだれもが歩ける歩道として親しまれています。木々の陰に覆われた道中は、溪流のせせらぎと静寂に包まれ、小さな土地公廟（土地の守り神の祠）や古民家が見え、素朴な人情が漂い、思わず足を止めてこの安らぎと静寂を味わいたくなります。しかし、この古道の最大の魅力は、角を曲がる度に現れる思いがけない景色に溢れていることです。カーブを抜けると、目の前には透き通る「夢潭」が広がり、底まで透き通った水面はきらきらと輝き、まるで桃源郷に迷い込んだかのような幻想的な光景が広がります。ルートの最後は、灣潭溪に沿ってキャンプ場まで石畳の道が続いていきます。全体が快適で心地良く、淡蘭中路の中でも最も親しみやすい歩道の一つとなっています。

また、特筆すべきは、灣潭古道が

チョンコンコドウ
中坑古道

コースの全長 | 約5.5km | 所要時間 | 約4時間

アクセス方法 | 双溪駅から780番バスに乗りし、下坑口バス停で下車。その後、案内標識に従い850mほど歩くと歩道口に到着。

ワンタンコドウ
灣潭古道

コースの全長 | 約4.6km | 所要時間 | 約2時間 | アクセス

方法 | スタート地点の「双溪口福德宮」には公共交通機関がない。ゴール地点の「灣潭キャンプ場」は、電車で「双溪駅」まで行き、F815番バスに乗り換え「灣潭駅」で下車し、徒歩5分で到着。

位置する地域は政府により水源保護地区に指定されており、このエリアを流れる清流は、最終的には全て翡翠ダムへ注いでいることです。ですからこの歩道を歩く際には、美しい景色をカメラで持ち帰るにとどめ、自然を傷つけないよう、環境保護を心がけましょう。

南路

烏塗溪歩道：竹林の溪畔に佇む
魚觀賞もできる秘境

新北市に位置する烏塗溪歩道は、全長約2kmの溪流沿いに整備された遊歩道で、幅広い年齢層に親しまれ、全年齢層に適したハイキングコースとなっています。道中は、竹林が両側から包み込むように生え、透き通った川の底で魚が泳ぐ姿も目にすることが出来ます。また、川の兩岸を繋ぐ趣の異なる数本の小さな橋も楽しめます。まず石碇シヤンヂヤン小学校を出発し、烏塗溪景観橋を渡ると、溪流に刻まれた壺穴や山猪石、かつての石炭輸送橋（運煤橋）の遺跡などが見え、その傍らに立つ炭鉱労働者の像はまるで、かつての面影を語りかけてくれているようです。また、道沿いの高い壁面には、地元出身の芸術家・楊敏郎氏による巨大なアート作品「龍蟠巨石護河川（巨岩に巻きつき河を護る龍）」が展示され、山道に芸術的な彩を添えています。

さらに進むと、幅約2mもある

ギランイヌビワの木が現れ、絶好のフオトスポットとなっています。また、途中には「摸乳巷」と呼ばれる分かれ道があります。かつては地元住民が共同で土を耕すための水牛を飼い、その作業をする牧童が使っていた古道でしたが、現在は地元の人々が手造りで遊歩道として整備し、歴史あるこの道が再び人々の目に触れるようになりました。夏のハイキングでは、靴を脱いで水辺に足を浸し、たくさん魚やエビと一緒に涼しい溪流を楽しむのも一興です。遊歩道を歩き終えたら、石碇老街に足を延ばし、昔ながらの街並みで名物の豆腐料理に舌鼓を打てば、旅に素朴な味わいと余韻を添えてくれること間違いなしです。

南路

鯪魚堀溪歩道：山に寄り添い、
水と親しむ緑の小径

その豊かな水で周辺の茶畑や棚田を潤している鯪魚堀溪は北勢溪の重要な支流で、その溪流沿いに整備された鯪魚堀溪歩道は、全長約8kmの歩行者と自転車共用のフラットな緑道となっています。山に寄り添い、水辺に沿って続くこの歩道には、碧く澄んだ溪流に泳ぐ魚たちの姿、そして川岸には点在する茶畑や緑深い山並みが広がり、坪林らしい長閑な

美しい田園風景を描き出しています。

道中には、複数の展望デッキや透明ガラスの橋が設けられており、溪流を見下ろしながら、魚の群れや水辺の生態を間近で観察することもできます。また、美しい景観だけでなく、休憩所や公衆トイレ、ベンチなども随所に整備されており、訪れる人々はいつでも足を止め、水の音やそよ風に耳を傾け、ゆったりと自然を楽しむことができるようになっています。

¹ 遊歩道には案内標識が随所に設置されているので、道に迷う心配はありません。

^{2&3} 台湾は雨の多い亜熱帯に位置しており、山林の中には日本ではあまり見られないシダ植物などの植生が豊かに広がっています。歩きながら、ぜひ好奇心のままに観察や探索を楽しんでみてください。



ウーブーシーホドウ 烏塗溪歩道

コースの全長 | 約2.3km | 所要時間 | 約1時間半 | アクセス方法 |
台北 MRT 文湖線 木柵駅で下車し、666番バスに乗り換え、石碇国小駅バス停で下車。

ユーブーシーブーダオ 魚堀溪歩道

コースの全長 | 約7.6km | 所要時間 | 約4時間 | アクセス方法 |
台北 MRT 新店駅から坪林駅または坪林国中駅で下車。そこから坪林旧橋の下を通り、北勢溪鯪魚歩道へ入り、約20分歩くと魚堀溪歩道に到着。



現在目にする淡蘭古道の沿道は、地元の素材を用い、「元の姿のまま」に近い形で手作業による修復が行われています。人工的な手を加えずにいたため、歩きながら先人たちの歴史が刻まれた当時の面影を感じ取ることができます。

古道散策 番外編

ジンズーバイコドウ

金字碑古道

日台友好を象徴する
最初の遊歩道



アクセス方法

ホウトン
電車で猴硐駅まで行き、
F808 番バスに乗り換え
ゴンチャオリー
「弓橋里活動中心」バス停
で下車。そこから徒歩約
10分で古道の入口に到着。

淡蘭古道北路の中でも象徴的な文化遺産として知られるのが「金字碑」です。19世紀、台湾鎮総兵・劉明燈によって建立された石碑で、力強い篆書が刻まれ、かつては金箔が貼られていたと伝えられます。陽光に輝くその姿から「金字碑」と呼ばれるようになり、1985年には国家三級古跡に指定されました。近年、金字碑古道は文化遺産としてだけでなく、日本・宮城県のオルレ歩道と友好提携を結び、国際交流の象徴として注目を集めています。遊歩道に設置された「赤いオルレ馬」や双扇、蔭石柱が日台の絆を象徴し、訪れる人々は、百年前の開拓者たちの足跡を辿りながら、現代に息づく温かな交流の物語を感じ取ることができます。

ガンジャオイーザン

柑脚驛站 珈琲館

歩き疲れたら立ち止まり、
コーヒーの香りに包まれながら
その土地の物語に耳を傾ける

「谷間の真珠」と称される柑脚は、淡蘭古道中路にある中継地点。かつて茶葉の生産地として栄え、物流の拠点としても発展しました。現在では旅人が心と体を癒す休憩地となっています。

その地に誕生した「柑脚驛站」は、元金融業の王澤松さんが引退後に自ら手がけたカフェ。自家焙煎の「柑脚スペシャルブレンド」は豊かな香りで多くの人を魅了します。ここではコーヒーを味わいながら古道文化に触れ、ガイドツアーや宿泊体験を通して、農村と山道が織りなす暮らしの息吹を感じることができます。



info

- 新北市双溪区外柑里外柑脚39之3号
- 民宿と古道ガイドツアーは完全予約制 (Facebook)

Facebook



山林の秘境に佇む鉄道・滝・山里の風景

三貂嶺

サンディアオリン
三貂嶺は、鉄道、山林、そして滝の魅力が一つになった独特な場所です。この秘境の駅のプラットフォームから、遠くに広がる溪谷を眺め、トンネル内に張った水面に、鏡のように映り込む光景の美しさに息を呑み、さらに滝へと続く遊歩道で水音に包まれるそこは、歩を進めるたびにまるで異なる時空の新たな章へと足を踏み入れていくような感覚にさせてくれ、人混みはもちろん喧騒もなく、自然の純粋さと時間がもたらす癒しだけが存在する場所なのです。

三貂嶺駅

道路が通っていない秘境の駅

ルイファン

新北市瑞芳と双溪の間には、台湾で唯一公道から直接アクセスできない「三貂嶺」という駅があります。ここへは台北駅から各駅停車に乗り、約1時間で到着できます。

駅は非常に狭く、山側に面したプラットフォームの幅はわずか2mにも満たず、反対側のすぐ傍には基隆川が流れている特殊な地形のため、自転車やバイクは通行できず、鉄道でしかアクセスできません。こうした理由から鉄道ファンの間では「秘境中の秘境」と称されています。この駅は宜蘭線と平溪線の分岐点にあるため、ホームに立つと異なる方向へ向かう列車を同時に目にする事もあります。そんな溪谷の風景と列車の動きが織りなすその風景は、この駅を単なる交通の要所ではなく、まるで山間の世界へと繋がる入口のように感じさせ、旅人を静寂の時空へと誘ってくれます。

自然一体型トンネル

旧鉄道を使って生まれた

サイクリングロード

駅を出てから少し歩くと、また違った感動に出会うことができます。それが三貂嶺自然一体型トンネルです。ここへは三貂嶺駅または牡丹駅からアクセスでき、トンネルの全長は3・19 kmあります。もともとは宜蘭線の旧鉄道でしたが、新トンネルの開通により30年以上にわたって放置され、

荒れ果てていました。しかし近年、台湾とフランスのデザインチームによって改修され、台湾初の「鉄筋サイクリングロード」へと生まれ変わったのです。

トンネル内には過度な装飾や修復は施されておらず、両側の壁面には長い歳月を物語る鍾乳石や苔の跡がそのまま残されています。また、トンネルの天井には台湾に生息する「葉鼻蝠」と呼ばれるコウモリの群れが生息しているため、デザインチームは壁面の反射を利用した間接照明を取り入れ、照明が生態に過度な影響を与えないよう配慮したほか、トンネルの入口にある水たまりを巧みに利用し、外の緑豊かな山肌を映し出すことで息を呑むような鏡合わせの風景を創り出しました。また、徒歩や自転車で移動していると、時折大きな音を立てて通り過ぎる列車に遭遇することもあり、旅に驚きとロマンを与えてくれます。現在は環境の質と安全を守るため、入場には事前にオンラインでの申請が必要となっており、耳をすませばまるで歴史と自然が静かに語り合っているのが聞こえてくるかのようなゆったりとした道のりを過ごすことができます。

滝歩道

山林に分け入り、自然と共鳴する

三貂嶺は鉄道の景色だけでなく、山間に寄り添うようなハイキングコースも魅力のひとつです。三貂嶺駅を出て、鉄道沿いの小径を少し進むと「三貂嶺の滝歩道」に入

ります。ここは全長約2・7 kmで、入口は現在は廃校になっている碩仁国小(シヨレン)学校の校門前にあります。三貂嶺の滝群は三層に分かれており、徒歩で約30分進むと第一層の「合谷の滝」景観台に到着します。こちらは傾斜も緩やかで沿道は木陰で覆われているため、年齢を問わずどなたでも楽しむことができます。さらに2つの小さな吊り橋を渡ると、上下に連なる第二層の滝「摩天の滝」と第三層の「枇杷洞の滝」にたどり着きます。ここでは、長い年月をかけて川が刻んだ断崖や罅(オウシュエ)穴を持つ壮大な滝の姿を間近で見ることが出来ます。

三貂嶺への旅は、山や森林、溪流の鼓動を五感で受け止められる特別な体験です。台北近郊で心が落ち着くような秘境を探しなら、まさに理想的な場所と言えるでしょう。

三貂嶺自然一体型トンネル

| 開放時間 |

8:30 ~ 16:30、火曜日お休み(最終入場時間 16:00、完全予約制)

| アクセス方法 |

電車で牡丹駅または三貂嶺駅まで行き、徒歩でトンネル入り口へ

予約サイン



三貂嶺の滝遊歩道

| コースの全長 | 約2.71km

| 所要時間 | 約2時間

| アクセス方法 | 電車で三貂嶺駅まで行き、徒歩約10分で入口に到着。



三貂嶺駅の外にはUbikeのレンタルステーションがあり、自転車に乗って気軽に探索の旅を始めることができます。

鉄道沿いのゆったりとした時間

アートと自然が織りなす 癒しの旅

山林と鉄道の間にひっそりと佇む
三貂嶺の隠れ家的なお店を四軒訪
ね、コーヒーや本の匂い、美食が紡
ぐアートと食の旅へご案内します。



廃墟に佇む山小屋

Cafe Hytte

三貂嶺の滝にほど近い場所にひっそりと佇む Cafe Hytte は、「地図に載っていない」カフェです。位置情報の検索には引っかかり、訪れるには小径を辿り、地下道をくぐり、木々のトンネルを抜けて、草原に並ぶ石の道を歩いていかねばなりません。そうして、ようやく石段の上に自然と共生する小屋が姿を現わします。店名の「Hytte」はノルウェー語で「小屋」を意味し、カフェはユニークな廃墟のスタイルで、剥がれ落ちた古い壁やリサイクルの家具が、荒廃しつつもどこか温かみのある空間を創り出しています。店内には Wi-Fi もエアコンも電話もなく、あるのはハンドドリッパーコーヒーと日替わりスイーツのみですが、そのシンプルさこそ、旅人が心からリラックスできる秘訣なのです。

さらに、店内の半分は屋根のない開放的な空間で、見上げれば青空と木漏れ日が差し込んでくる様子が目に飛び込めます。メニューは古い壁に掛けられ、テーブルや椅子の多くは店主自ら修理して再利用したもので、週末は営業せず、平日だけひっそりとオープンするこの場所は、冒険好きの旅人だけが出会える特別な宝物のような場所となっています。



● 新北市瑞芳区魚寮路113号
● 12:00-17:00、日曜定休（土曜日は不定期営業）
◎ cafehytte

info

無人駅の傍で過ごす癒しのひととき

與路

Yu Lu Café



大華駅の傍にある「與路 Yu Lu Café」の店内には、木目調と暖色系の家具で統一された空間が広がっています。席数は多くないものの、天気の良い日にはシンプルなテラス席で、山あいの町ならではの緑に包まれた静かなひとときを楽しむことができます。壁を彩る装飾も見応えがありますが、それ以上に魅力的なのは窓の外をゆっくりと走る列車とのどかな小川の風景です。ハンドドリップコーヒーと日替わりの手作りスイーツを味わいながら、疲れが解けていくような癒しの時間を味わうことができます。

與路カフェの前身は古い雑貨店でした。往年の面影が残る木製の扉と古い窓は、店主の手によって再び息を吹き込まれ、小さな町の新たな拠点として蘇りました。店には「一路」という黒い看板犬もあり、旅行者を元気に迎えてくれる存在です。

● 新北市平溪区六分13号（大華駅すぐそば）

● 12:00-17:00、木曜・金曜定休（不定休あり。SNSでご確認ください。）

◎ yulucafe

info

山間に佇むイタリアンバル

寛哥那裡



瑞芳の三貂嶺の山間にひっそりと佇む「寛哥那裡」は、廃屋をリノベーションして生まれたイタリアンバルです。外観はまだらに剥がれたコンクリート壁が残され、そこに植栽やレトロな家具が配置されて、粗削りな中にも魅力的な雰囲気を出しています。

最も魅力的なメニューは、焼きたての窯焼きピザです。「マーガオ（山胡椒）スパイスと豚バラとシシトウのピザ」のような台湾風創作ピザも、本場イタリアのクラシックなピザも、窯から熱々の焼きたてピザが出てきた瞬間、誰もがその香りの虜になります。この場所の魂の源は、寛哥とその子供たちが協力して営むことにあります。彼らは自分たちの手で空間を創り上げ、修復しながら、イタリア料理に専念する者や、コーヒー豆の焙煎に拘る者など、趣味と技を注いでいるのです。

● 新北市瑞芳区魚寮路110-1号

● 11:00-19:00

◎ about_kuan_there

info

深い山間にある香港系私設図書館

禾𪗇

WO GWONG



三貂嶺駅を出て、線路とかつての鉱山村に沿って進むと、廃墟となった銭湯を改装した小さな空間が目飛び込んできます。ここは、山の中に隠れた図書館「禾𪗇 WO GWONG」です。そこには限られた小さな空間に、香港にまつわる図鑑や書籍約200冊が整然と並べられていて、書籍には、館主の阿燊さんによる手書きのレビューも添えられており、ユーモアと誠実さが見え隠れしているのが分かります。

阿燊さんは香港出身で、旅行と陶芸を学ぶために台湾を訪れ、最終的に三貂嶺に根を下ろしました。彼はここを文化の拠点として、本を置くだけの場所ではなく自由への憧れと香港への想いを込めた場所に築き上げ、店内は書籍以外にも陶器や小型の展示が行われる、シンプルながらも深い想いに満ちた空間となっています。

● 新北市瑞芳区224魚寮路110号之5

● 不定休あり、SNSで確認ください。

◎ wo.gwong

info



1
2

¹「米粒（こめつぶ）蔭油」は、お粥を炊く工程から着想を得て、白米を使うことでとろみを生み出し、味わいの中にほんのりとした米の甘みを感じさせる御鼎興ならではの特製蔭油膏です。

²一缶一缶の手づくりの西螺蔭油は、長い時間をかけて日光を浴びながら自然発酵させることで、土地と歳月の香りをぎゅっと凝縮しています。

醤油——それは私たちの食卓で最も当たり前の存在でありながら、なくてはならない存在といえるものです。つけだれにも、煮込みにも、繊細なソース作りにも——その塩気の中に広がるやさしい甘みは、日々の記憶に静かに刻まれてきました。けれど、一度でも立ち止まって、一本の醤油の背後にどんな物語や技が隠れているのかに思いを馳せたことはあるでしょうか。あるいは、舌をときすませて味わいの微妙な違いを感じたことがあるのでしょうか。

台湾・雲林県（ユンリン シルオ）の発祥地として知られています。ここで造られる黒豆蔭油は、太陽の光を浴びながらじつくりと時間をかけて発

台湾醤油の シー ルオ 西螺 「ふるさと」

酵・熟成され、濃厚で奥行きのある旨味を生み出します。塩味の中にまろやかな甘みがあり、余韻が驚くほど長く続くのが特徴です。日本の一般的な大豆醤油が切れ味のよい塩味を持つのに対し、台湾の蔭油はよりふくよかで丸みがあり、肉の煮込みや滷味（台湾の煮込み料理）の味をしつかりと支える深いベースのような存在です。

今回の特集では、台湾蔭油の本場・西螺を訪れ、手づくり醤油を守り続ける「御鼎興醤油」取材します。伝統の工法や発酵の時間をたどりながら、一滴の醤油ができるまでの物語を探っていきます。

黒豆醤油の故郷

台中から南へ車を走らせ、濁水溪にかかると真つ赤な西螺大橋を渡ると、広々とした平野と静かな町の風景が目に見え込んできます。ここが「台湾蔭油の故郷」と呼ばれる雲林県・西螺です。

濁水溪が運ぶ肥沃な沖積土と安定した水源に恵まれた西螺は、黒豆栽培にうってつけの土地です。黒豆こそ、台湾伝統醤油の核となる原料です。日本の一般的な大豆醤油と比べ、黒豆醤油は色合いが深く、味わいもぐっと厚みを増します。最初はしっかりと塩味が広がり、そのあとにふわりと柔らかな甘みが追いかけて、最後に豆の香りと果実を思わせる優しい甘さが残る、その重層的な味わいは一度知れば忘れないものです。

比較を進めると、日本の醤油は種類ごとの使い分けが明確です。もっとも一般的な家庭用の濃口、料理の色を保つす口、二度仕込みで風味が濃厚な再仕込み、お寿司や刺身の旨味を引き出す溜醤油、甘みと淡さが特徴、汁物や玉子焼きに最適な白醤油などがあります。日本の醤油はキレのある塩味とすっきりした味わいが魅力ですが、台湾の黒豆醤油はより落ち着いた深みとまろやかさ、そして長く続

く余韻が特徴です。まるでウーロン茶やウイスキーのような奥行きがあり、濃味や煮込み料理、和え麺などにぴったりです。

火と時間が織りなす味わい

町外れの細い道を抜けると、静かに佇む手づくり醤油の工房が現れます。御鼎興醤油の裏庭には、漆黒の陶甕が整然と並び、太陽を浴びて艶やかに輝いています。その中では、時間と風土がゆっくりと対話を続けています。

良い醤油づくりは、まず黒豆を選別するところから始まります。粒がしっかりと詰まった黒豆を洗い、蒸し、麴をまぶします。麴がたんばく質やデンプンを分解し、旨味の源となるアミノ酸や糖を作り出します。菌の種類によって香りが変わり、甕ごとに異なる個性が生まれるのも面白いのです。

粗塩を混ぜた黒豆は陶甕に仕込まれ、昼は太陽の熱を吸い込み、夜は気温の変化に合わせて呼吸します。数か月かけて豆の香りが解き放たれ、色が深くなっています。甕の底に沈む「壺底油」は、もっとも濃厚で芳醇な部分です。塩味と旨味が凝縮した、台湾蔭油ならではの宝物です。

発酵を終えると「煮醬（醤油を煮る）」の工程へ進みます。御鼎興では今も薪火のかまどを使い、ゆっくりとした熱で醤油を煮込みます。薪の煙がほのかに醤油へ移り、木の香りが昆布を思わせる余韻を残します。大切なのは効率ではなく、火と向き合う時間そのものです。かまどから立ち上る湯気はナッツや果実、大地の香りを含み、そのかぐわしさは蜜蜂さえも引き寄せるほどです。

煮終えたあとも、さらに静かに覆かせて熟成を重ねます。塩味・甘味・旨味が溶け合い、最後に甕ごとに微妙なバランスを整えて完成します。大量生産の均一さを求めず、あえて小さな差を残すのが小規模工房の美学です。

良い醤油の楽しみ方

醤油といえば「塩辛い」という印象で止まっている人は多いかもしれないですが、じつは本当の味わいを知るには、目・鼻・口の三つの器官を順に利かせることが必要です。

まずは色あいをじっくり観ます。上質な黒豆醤油は深い赤みを帯びた琥珀色で、輝きを放ち、濁りがありません。次に香りを嗅ぎ

ます。良い醤油は層を感じさせる複雑な香りを放ち、ときに熟した果実のように、あるいはナッツのように香り、昆布や桑の実を思わせるやわらかな甘い余韻が漂うこともあります。最後に口で味わいます。最初は舌先に塩味が広がり、次に甘みと旨味が重なり合い、飲み込んだあとには長く続く余韻が喉の奥に残る、その深い余韻こそが、醤油を特別なものになっているのです。

近年、醤油の世界はさらに多様化しています。御鼎興では、伝統の黒豆蔭油のほか、米粒をそのまま残した「米粒醤油」はまろやかでほのかな甘みがあり、「壺底油」は塩味と旨味を極限まで凝縮した濃厚な味わいです。そして台湾ならではの「醬油膏」は米漿やもち米粉でとろみをつけ、甘じょっぱい味が米糕（台湾式おこわ）や肉粽（台湾ちまき）、黑白切（ゆで豚の部位盛り合わせ）など庶民的な小吃に欠かせない存在です。これら多彩な醤油が、煮物やタレ作りだけでなく、料理のシーンに合わせて自由に表情を変え、食卓を豊かにしてくれます。

時間をかけることの価値

スピードと効率求められる現代にあっても、なぜ人はあえて手間と時間をかけた醤油づくりを続けるのか——その理由は、時の積み重ねが生む特別な価値にあります。日光に晒し、じっくり発酵させ、薪火で煮込み、さらに熟成を重ねます。どの工程も欠かせず、このゆったりとした時間が、醤油を単なる調味料ではなく、土地の味と文化を受け継ぐ象徴へと育ててきました。

西螺を訪れば、醤油の仕込みから熟成までを体験できるだけでなく、その味わいをお土産にして持ち帰ることもできます。御鼎興では、伝統の黒豆蔭油をはじめ、米粒の食感を残した醬油膏、旨味を凝縮した壺底油、果実を使った新しいタイプの醬油まで、多彩なギフトセットを展開しています。贈り物にも、自宅用にも、日常の食卓で西螺の風味を楽しむのにぴったりです。

次に西螺の黒豆醤油を開ける時は、ほんの少しだけ動きをゆるめてみましょう。まずはその深い色を目で楽しみ、香りをゆっくり吸い込み、最後にそっと味わいます。その瞬間、醤油が単なる「塩気」ではなく、時と風土が織りなす長い旅のような味だと気づくはず

西螺大橋

一緒に見つけよう

濁水溪をまたぐ西螺大橋は全長1939メートル。1952年の完成当時には「極東一の長橋」と称され、雲林県と彰化県を結ぶ戦後台湾交通建設の象徴でした。赤のコントラストが陽光に映え、今も西螺を代表する風景のひとつとなっています。橋を歩けば、濁水溪の川面が風に揺らめき、往時のにぎわいがふと蘇ります。

● 雲林県西螺鎮建興路

西螺延平老街

(西螺延平オールドストリート)

西螺延平老街は、かつて台湾中部の重要な水陸交通と物流の拠点として栄え、すでに170年以上の歴史を誇ります。現在も1930年代に建設されたアールデコ調の洋館建築が並び、シンプルで力強いラインが日本統治時代の美意識を語りかけてきます。見上げれば、堂号や店名が刻まれた装飾が残り、当時の繁栄を今も垣間見ることが出来ます。

● 雲林県西螺鎮延平路130号

西螺東市場



西螺東市場は、清朝末期の渡し場市に起源をもち、1950年代に完成した現在の建物には西螺大橋の工事で余った木材が使われたと伝えられています。いったんは商業の中心が移り衰退したものの、2007年に地元の文化団体によって修復され、今ではクリエイティブなマーケットとして再び活気を取り戻しました。古い市場のファサードが街の風情を残しながら、新しい時代の感性と交わる場所となっています。

● 雲林県西螺鎮延平路47号

4

ジェンウェンシュイン 振文書院

雲林県西螺鎮興農西路6号

1814年(清・嘉慶年間)に建てられた振文書院は、雲林県で最も古い書院のひとつです。かつては地元の学び舎であり、やがて科挙試験の会場や文人たちの集いの場として栄えました。今も孔子を祀る祭典と伝統的な建築が受け継がれ、木造の堂や石碑、牌楼が古風な趣を漂わせました。歩くうちに、西螺の教育文化の華やかさと二百年続く静けさが感じられるでしょう。



ホアンジャ

黄家三代伝承の

フライドエシャロットジュウツォングオ

油葱九層糕



九層糕は、西螺の人々にとって昔から親しまれてきた伝統の味です。幾重にも重ねた米の生地を蒸し上げることで、もちっとした食感とやさしい米の香りが広がります。黄家が三代にわたって守ってきたレシピには、香り高いフライドエシャロットがたっぷり使われ、塩気とほのかな甘みが交じり合う奥深い味わいになります。朝の街角に漂う熱々の九層糕とフライドエシャロットの香りは、多くの西螺の人々にとって幼いころからなじんできた思い出深い朝食です。



雲林県西螺鎮興延平路274号
05:45-11:30、月曜定休



Facebook



| もち菓子専門店 |

幸福翔綺西螺麻糬大王



まちを散策すると、ひときわ目を引くスイーツが「幸福翔綺麻糬大王」です。地元のもち米を使って職人が手作りするおもちは、柔らかく弾むような食感が魅力です。なかでも人気は、ピーナッツやごまの砂糖粉をまとった片もちです。香ばしい香りが漂い、食べ歩きにもぴったりです。ブレインのほか、ピーナッツ、あずき、タロイモ、さらにはフェレロ・ロシエチョコレート入りなど、餡の種類も豊富です。伝統と新しさが合わさった、西螺ならではの甘いごちそうです。

雲林県西螺鎮中山路211号 09:00-18:00 17flyhappy

| 伝統の麦芽糖菓子店／手作りスイーツ |

目鏡仔麥芽酥・皮那斯手作

西螺老街の「目鏡仔麦芽酥」は、1926年から続く老舗で、伝統の味を受け継いでいます。もち米を煮詰めて作る麦芽糖と地元産のピーナッツが合わさり、香ばしくサクツとした食感ながら歯にくっつきにくいのが特徴です。最近ではピーナッツ菓子をかき氷やソフトクリームに振りかける新しい楽しみ方も人気です。香ばしくてカリッとした食感とひんやりした甘さが重なり、昔ながらのおやつが夏のスイーツに生まれ変わります。伝統と創造が交わる一口が、西螺旅の楽しい発見になるでしょう。



雲林県西螺鎮建興路244号
08:30-20:00

Facebook



米のもち西螺！

山のふもとで文化を味わう町、 草屯へ



草屯、台湾中部の山あい位置するこの小さな町は、日月潭や合歡山へ向かう旅人が足を止め、ゆったりと息を整えられる町です。かつて「草鞋墩」と呼ばれ、今も年配の人々にはその名のほうが親しまれています。昔、鹿港の沿岸からやってきた商人たちは山の幸を求めて八卦山を越え、埔里の山々へ入り、また埔里の人々も海辺に品を運び出す途中で草屯に立ち寄り、ここで履き古した草鞋（わらじ）を新しいものに履き替えたと伝えられています。こうして草鞋が積もって小さな「墩（丘）」をなしたため、休憩と補給の場所から、次第に「草鞋墩」という名を持つ集落へと育っていきました。

草屯は南投県北部に位置し、台中市と南投県の山間部を結ぶ交通の要衝です。西へは台中平原へ、東へは合歡山や日月潭、さらに南投の中心である埔里へと通じるルート上にあります。こうしたハブ的な地理条件から草屯は農業経済だけでなく、商品の運搬や旅人の休憩地としても機能し、交通と地理の利点が産業の発展を後押しし、農産やサービス業から工芸や文化創作へと裾野を広げていきました。

草屯の工芸文化は1950年代に芽を出した。1954年に発足した「南投県工芸研究班」は地方政府が主導して工芸教育に取り組んだ最初の機関だ。竹編、木彫、陶芸などの手仕事を学ぶ場として始まり、やがて「南投県工芸研究所」へ改組、1973年には「台湾省手工業研究所」へと昇格した。その役割は製作指導だけでなく、デザインの研究や品質向上、輸出力の強化まで含んでいた。1999年には「国立台湾工芸研究所」、2010年には文

化部所属の「国立台湾工芸研究发展中心」として再編され、現在の姿となった。敷地内には、竹編・織物・陶磁・金工などの伝統工芸の展示をはじめ、生活工芸館、工芸情報館、体験工房までがそろっている。まさに旅人が実際に触れ、モノが日用品からアートへと変わっていく過程を感じ取れる場所だ。

こうした工芸と文化教育の土台の上に、草屯は少しずつ文化の香りを濃くしていききました。近年、中興新村の公共建築や緑あふれる並木道は再び生命の息を吹き込まれ、旧省政府の官舎群は今やカルチャーショップやデザイナーのアトリエへと生まれ変わっています。さらに、毓繡美術館などの私設アートのスペースの設立は、アーティストと社会が対話をするための場を創出しています。かつて山へ向かう前の休憩地だった草屯はいま、工芸とデザイン、ライフスタイルが息づく文化の町へと姿を変えています。

草屯周辺を訪れる機会があれば、ぜひ足を止め、この町の魅力をじっくりと探してみたいと思います。工芸研究发展中心で手作り工芸の展示を眺めたり、古物のセレクトショップでデザイン雑貨を探したりするのも楽しいですよ。中興新村の緑陰を散策して往時の記憶に触れたり、山あいの美術館で現代アートに出会うこともできます。草屯はもはや山へ入る前の一休みの場所だけではなく、人文の雰囲気静かに育む町となっています。旅の途中に立ち寄れば、心がそっと解きほぐされる場所です。

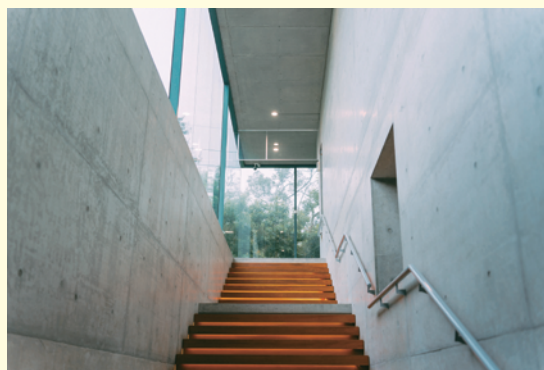


中興新村

SPOT 001

毓繡美術館

毓繡美術館は南投県草屯鎮の九九峰山の麓に位置し、侯英莫^{ジョウジョウホンサン}と葉毓繡^{ホウインミン}夫妻によって設立された私立のリアリズム美術館です。建物は打放しコンクリートと大きなガラス窓で構成され、自然と調和しながら静かな美をたたえています。館内では現代写真絵画を中心に、展示・収蔵・研究・教育を通して芸術創作を支援し、地域や若手アーティストの発信と国際交流にも力を注いでいます。快適な鑑賞環境を守るため、来館は予約制となっており、自然光と建築のディテールが織りなす空間でゆったりとアートを楽しめます。



● 南投県草屯鎮健行路150巷26号

● 火・水・金・土・日10:00-17:00

木曜10:00-15:00、月曜定休

無料予約サイト



SPOT

002

hyaku yama°

コンクリート、土壁、竹の垣根、静かな素材感が美しい「hyaku yama°」は、彫刻家の蕭任能^{シアオレンノン}と妻の陳玉真^{チェンコウゼン}さんが、建築デザインから空間の配置、素材選び、古物のセレクトまでを手がけ、二人の理想の暮らしを映し出した古物セレクトショップです。侘び寂びの感性と台湾建築の美学を融合した店内には、二人が集めた古道具が、茶の香りと光の陰影に包まれて静かに並びます。ここでは、ゆっくりと時間の流れを感じながら、自分の感性と静かに向き合うことができます。



● 南投県草屯鎮太平路一段462号 ● 完全予約制
 ◎ hyakuyama



SPOT

003



セイテン
 正典牛乳大王で販売されている
 アイスサンドは、必ず食べたい
 絶品スイーツです。



● 南投県草屯鎮中興新村
 ● 公共エリアは通年開放、建物や店舗は各所の公告に準じる。

中興新村

中興新村は南投市の北部にあり、1957年にイギリス・ロンドンのニュータウンをモデルに建設されました。かつて台湾省政府が置かれた町は、いまでは緑に包まれた散策スポットとして旅人に人気です。四季折々の景観から「花園都市」と呼ばれ、県定古跡や歴史建築が点在します。「小白宮（リトル・ホワイト・ハウス）」と呼ばれる中興会堂や、百種の切手を展示した郵便局の壁など、文化的な見どころが点在します。近年は古民家のリノベーションが進み、カルチャーショップやカフェが増えて、旧眷村^{ジュエンツン}（軍属・公務員向けの官舎村落）に新たな活気が吹き込まれています。ゆったり歩きながら楽しむのにぴったりの場所です。

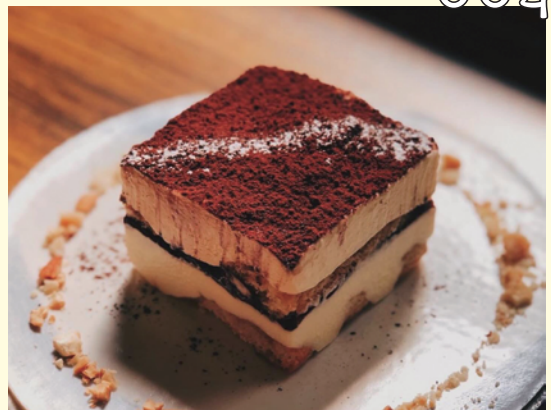
映古子 in good hands cafe

南投県・草屯鎮の育才巷^{ユーツアイシャン}にひっそりとたたずむ、リノベーションされた古民家カフェです。2013年にオープンし、若いオーナー二人が空間づくりからメニューまで心を込めて手がけた。三階建ての建物はどこか懐かしいレトロな雰囲気です。1階は気軽におしゃべりを楽しむ場所として、2階は明るい光が差し込む午後の憩いの場として、3階では不定期に展覧会やイベントが開かれ、カフェにアートの驚きを添えています。

ハンドドリップコーヒーやオリジナルドリンク、手作りスイーツが人気で、とくにティラミスやキャラメルプリン、シフォンケーキは評判です。自然光が差し込む空間に本棚が並び、時折現れる猫ちゃんとともに、ゆったりとした午後も過ごせる。草屯を訪れたら、ぜひ立ち寄りたカフェです。



● 南投県草屯鎮育才巷54号
 ● 11:00-18:00、火・水曜定休、実際の営業時間は店の告知に準じる
 ◎ ingoodhands_cafe



SPOT

004



SPOT
005



台湾工芸研究発展センター

台湾工芸研究発展センターは南投県草屯に位置し、約6ヘクタールの広さを持つ台湾随一の工芸拠点です。開放的に設計された敷地内を自由に巡りながら、来訪者は工芸の美しさを全身で感じ取ることができます。彫刻家楊英風ヨウエイフウと建築家たちが設計した工芸文化館は、編む精神を象徴する二重十字形をモチーフにした建物で、多彩な展覧会を開催しています。モダンと東方哲学を融合させた工芸設計館でも、「Yii」ブランドや異分野を横断する現代デザイン作品が展示されています。生活工芸館では、手作り体験や親子向けワークショップも楽しめます。手仕事と工芸文化を体感するのに最も適したスポットです。



南投県草屯鎮中正路573号

火～日09:00-17:00、月曜定休

鶏・豚・ヤギ

三種のスープめぐり

台北の冬を
あたためる

冬の台湾で身体をほっと温めてくれるもの、それは、何ととっても一杯の熱々スープです。今回、台北の冬を語るうえで欠かせない、鶏・豚・ヤギ三種類のあたたかなスープを紹介しましょう。砂鍋でじっくりと煮込んだ濃厚な鶏スープが自慢の「驢園」姉妹店「雞窩餐廳」、夜市グルメの王道として親しまれる延三夜市のスペアリブスープ、そして南門市場の向かいで味わえる、透き通った清湯と薬膳を合わせた当帰^{トウキ}ヤギスープの名店「樂天羊肉湯」です。

旅の途中で湯気と香りに包まれながら一杯のスープを味わえば、冷えた体がほぐれていくと同時に、台湾の食文化に息づく温かさと深い味わいに触れられるはずです。

愛しの台湾味



灶頂原汁排骨湯 & 高麗菜飯

豚スペアリブスープ & キャベツ炊き込みご飯



一杯のスープと一膳のごはん
素朴で満ち足りた日常の美味しさ

● 台北市大同区延平北路三段17巷2号（延三夜市近く）
● 10:00-20:00、月曜定休

豚スペアリブのスープは、台湾人の食卓によく並べられる身近な料理です。延平北路三段17巷の角、延三夜市入り口の「灶頂」^{サオテン}豚スペアリブスープは、その中でもとびきりの一軒です。台湾で「排骨湯（豚スペアリブスープ）」といえば、骨付きの大きなスペアリブと、透き通るほど柔らかく煮込まれた大根の組み合わせが定番です。シンプルながら、豪快な骨付き肉が運ばれてくると食欲をそそられます。長時間煮込まれたスペアリブは驚くほど柔らかく、豚の自然な甘みがほろりと口に広がり、ほとんど噛まなくても崩れるほどです。手で持って豪快にかぶりつけば、骨と肉の間の弾力ある膜や骨髓の旨味がじんわり溢れ、思わずうなってしまうます。もし少ししつこく感じたなら、大根をひと口どうぞ。冬の台湾大根は甘くほくほくで、スープを吸ってさっぱりとした後味を添えます。もっと刺激が欲しければ、卓上の辣醬油（辛い醤油）をぜひお使いください。塩気と辛さが加わると、肉の旨味がさらにひき立ちます。

さらにぜひ試してほしいのが、店のもうひとつの名物「高麗菜飯（キャベツ炊き込みご飯）」です。日本のキャベツよりも薄くパリッとした葉が特徴の台湾キャベツは甘みが強く、ご飯と一緒に炊き込むとやさしい甘さと爽やかな香りを放ちます。米粒の間にキャベツの食感と旨味が混ざり、さっぱりしつつも満足感のある味わいになります。単品でも主食として十分楽しめます。熱々の排骨湯と合わせれば、まさに素朴ながらも最強の一膳になります。次に訪れたときは、ぜひ地元民のように「來一套（ライイータオ／セットで）」と注文してみよう。





台北で味わう濃厚鶏スープの名店 2～3人旅にもぴったりの少量サイズ

● 台北市信義区和平東路三段377号1階
● 11:30-14:00 / 17:30-21:00、水曜定休

Facebook



砂鍋鶏スープ

チーウォーツァンティン キエン
雞窩餐廳（驥園の姉妹ブランド）

台北で濃厚な鶏スープを楽しむなら、地元の人々が迷わずすすめるのが「驥園川菜餐廳」です。看板の砂鍋鶏スープは、老母鶏（親鶏）をベースに、熟成金華ハムと干し貝柱を加えて8時間じっくり煮込みます。鶏の旨味とコラーゲンが溶け込み、白濁したスープは深みのある味わいです。ひと口すれば鶏の香りと滋味が喉から胃へと染みわたたり、濃厚ながら後味は軽やかで、塩気と旨味のバランスも絶妙です。飲み干したら、すぐ二杯目が欲しくなります。豊富なコラーゲンで唇に少し粘り気残り、冷めると湯面に薄い膜が張るのも特徴です。

ただし驥園の砂鍋鶏スープは量が多くグループ向けで、一人旅や少人数には少しハードルが高いです。そんな時におすすめなのが姉妹店「雞窩餐廳」です。全鶏ではなく鶏モモを使った小鍋仕立てで、2～3人でも気軽にシェアできるサイズです。定番の砂鍋鶏スープのほか、タケノコや竹笙（キヌガサタケ）、白菜豆腐入りなどのバリエーションもあり、タケノコの優しい甘みや竹笙のコリとした食感が味に奥行きを与えます。また、看板の四川料理から生まれた「乾煸四季豆夾雞汁蔥餅（インゲン豆炒め入り鶏汁ネギ餅）」も必食です。香り高いソースをまとったインゲンを、もちもちの餅皮で包むと、香ばしさと食感の対比がクセになる美味しさです。





楽
天
羊
肉
湯

ヤギ肉すましスープ



ヤギ肉で身体を温め、体力を養う 都会の真ん中で楽しむ冬のランチにぴったり

📍 台北市中正区羅斯福路一段25号

🕒 11:30-21:00

ヤギ肉は高タンパク・低脂肪で、カリウムやカルシウム、鉄、ビタミンB群など栄養が豊富です。中華の食養生では、体を温めて気を補う食材として重宝されてきました。薬膳の当帰やクコの実と一緒に煮込んだり、シンプルに澄んだ透明スープにしたり、ヤギ肉スープは旨味が濃く、冬の体を芯から温めてくれます。

チンロウセウヤンロウ
ナンモンいちほ
中正紀念堂駅近く、南門市場向かいの「楽天

羊肉」は、ヤギのイラストが目印の可愛らしい看板と、現代的で居心地の良い店内が印象的です。食事ときにはいつも満席になるほどの人気店です。看板メニューの清燉羊肉湯（ヤギ肉すましスープ）は、透き通った黄金色です。ひと口飲めばヤギの深いコクに生姜のぬくもり、野菜のやさしい甘みが重なり、複雑ながらも重くなく、体がほぐれるような味わいです。

薬膳好きならぜひ当帰羊肉湯（当帰入りのヤギスープ）を。薬草のほろ苦さとヤギの甘みが溶け合い、口当たりは驚くほどまろやかです。台湾らしい独特の風味を楽しめます。まず当帰の薬草の香りが口いっぱいになり、次いでヤギの旨味がゆつくりと追いかけてきます。冬の冷えた体をじんわり温める一杯です。

ルイロウフン
もうひとつの名物は魯肉飯です。台湾南部の味付けで、やや甘めの醤油を使い、脂身が多いのが特徴です。豚皮を煮込んでとろりとした艶やかなタレが白米に絡むと、香りがふわりと立ち上がります。柔らかな脂身がほろりところろけ、甘辛いタレとご飯が絶妙に調和しています。思わず一口また一口と食べ進めてしまうおいしさです。名店のルーローハンにも引けを取らない、ぜひ試してほしい一品です。



SPORTY TAIWAN

フルスイング！

台湾の四大高級
ゴルフ場探索



台湾では、ゴルフとは単なるプロスポーツではなく、観光やレジャー、ライフスタイルと密接に関わるスポーツとなっています。近年は、多くのゴルフ場がビジターも利用できるようになり、それにつれてゴルフが旅の新たな選択肢ともなっています。コースの上で思いっきりスイングするだけでなく、自然に親しんだり、建築や美食を楽しむみたい旅人にもユニークな体験をもたらしてくれます。

今回は台湾の最高級ゴルフ場4か所を厳選しました。中部の建築の巨匠の作品から、北部のレジャースポット、歴史ある

国際大会の舞台、それから奥深い山に囲まれた南投の秘境まで、ゴルフというレジャーのさまざまな魅力をお届けします。

▶ 台豊ゴルフクラブ

建築の美×風土料理体験

タイホウ
台豊ゴルフクラブ

は、ブリツカー賞を受賞したポルトガルの巨匠、アルヴァロ・シザとコンビを組むカルロス・カスタニエラの主導によりリニューアルされたもので、建築とその地形・景観が絶妙に

マッチしています。広々とした緑の丘陵とシンブルで重厚感のある建築が美しく融合し、ゴルフクラブとスポーツカー、美食の饗宴が一度に楽しめる最高級のクラブです。



館内のレストランabnも注目ポイントのひとつ。ゴルフの予約をしていなくても食事を楽しむことができます。台湾全土から取り寄せた旬の食材が、日本の細やかな心くばりや欧州のオリジナリティと結合され、さらに台湾最高の醸造家による特製の酒を添えて、美しい山林に囲まれながら台湾の風土の美しさを満喫することができます。

このほか、台豊は日本の太平洋クラブとレシップロカル契約を結んでおり、双方の会員が相手側のクラブを会員として予約できます。台湾と日本のゴルフファンにとっては間違いなく朗報といえるでしょう。

info

◎ 彰化県大村郷学府路77号
☎ 05:30-18:00

コース

全18ホール、全長7,302ヤード

アクセス

台湾高速鉄道で台中（烏日）駅下車、タクシーに乗り換え約30分。

▶ 大溪ゴルフクラブ

国際ツアーの聖地

桃園市の大溪には山々と湖が折り重なり、コースに立つ前からゆったりとしたリゾートの雰囲気が

困気に包まれています。大溪ゴルフクラブはかつてヨーロッパツアーやオーストラリアツアー、アジアツアーなど国際ツアーが行われたことで知られ、タイガー・ウッズやアーニー・エルスといった世界的なスターがここでプレーし、ゴルフファンは国際ツアーの舞台となった魅力を感じることができます。

グリーンは東、中央、西の3エリアに分かれています。東と



中央のコースは起伏と地形の変化が大きく、難度は高め。西は比較的平坦で、ナイターもあり夜の爽やかなプレーを楽しむことができます。湖と山が溶け合う景観の中、時には白鷺がコースの間に舞い降りるのを見ることができません。アメリカンなカントリー風スタイルのクラブに、ラウンジ、レストラン、練習場のほか、そばには五つ星ホテル「大溪別館」もあり、レジャーとプレーの一泊二日が満喫できます。

info

📍 桃園市大溪区日新路168号
🕒 06:00-20:00

コース
全27ホール、東エリア3,750ヤード、中央エリア3,400ヤード、西エリア3,143ヤード

アクセス
台湾高速鉄道で桃園駅下車、タクシーに乗り換え約40分。

南峰ゴルフクラブ 山林の秘境×季節の風景

南投県の草屯までドライブすれば、目の前には広々とした草原と山々の尾根が連なります。ここにひっそりたたずむ南峰ゴルフ場は、まるで山林の秘境に入り込んだかのよう。アメリカの伝説的ゴルファー、リー・トレビノが自ら設計したコースは、



山の傾斜に沿って設計され、前半の9ホールは緩やか、後半9ホールは徐々に傾斜を登っていく、どのホールからも遠くに中央山脈と九九峰が折り重なる山の景色が眺められます。
春は桜、夏はアブラギリ、秋はキワタ、冬は冬桜と、四季折々の花がそれぞれ目を楽しませ

せてくれます。クラブハウスはスパニッシュな荘園スタイルで中華、洋食のレストラン、レセプションホールとスパエリアがあり、女性のための専用更衣室と休憩スペースも設けられています。またレストランは絶好のロケーションにあり、台中盆地を俯瞰することができるほか、夜景はさらに魅力的で、山林の中で都会では見ることのできない美しい自然と美味しいグルメが楽しめます。

info

📍 南投県南投市鳳山路336-1号
🕒 07:00-17:00

コース
全18ホール、全長7,065ヤード

アクセス
台湾高速鉄道で台中駅または彰化駅下車、タクシーに乗り換え約30分。

サンライズゴルフ&カントリークラブ オールマイティな レジャースポット

桃園市の楊梅^{ヤンメイ}に行くなら、スケジュールを単なるゴルフだけの日にする必要はありません。サンライズゴルフ&カントリークラブは施設そのものがオールマイティーなレジャースポットです。眺めのよい客室から、中華・洋食・和食のレストラン、プールやスパ、さまざまなスポーツの設備までを備え、老若男女を問わず、ファミリーでも友人同士でも休日を楽しめることができます。近くにはリド・フォレストリー・スパリゾートといったホテルもあり、温泉とゴルフの両方を楽しむこともできます。

info

📍 桃園市楊梅区楊昇路256号
🕒 05:30-22:00

コース
全18ホール、全長7,200ヤード

アクセス
台湾鉄道：台湾鉄道楊梅駅下車、タクシーに乗り換え約20分。
高速鉄道：台湾高速鉄道桃園駅または新竹^{シンジュウ}駅下車、タクシーに乗り換え約40分。

や斜面のバリエーションもさまざま。PGAツアーやワールドユニバーシティゲームズが開催され、世界的にも名声を博しています。各ホールのそばには季節の樹木や花が植えられ、時季によって異なる顔を見せ、プレーを彩ってくれます。



月下老人に祈り、

甘味で縁結び

PROFILE

李璐

1990年生まれ。アボカド好き。
台湾籍日本兵を題材とした舞台脚本『南十字星』、少年小説『不在の彼らと運れてきた私へ』、歴史小説『雪の虜』を刊行。



Wish

台湾人の恋愛支度といえば、まずは月下老人へお参りするのが定番です。私の母でさえ「ベトナムで知り合った友人がちょうどあなたと同じくらいの年齢でね、良縁を授かりたいと願っている。今度台湾に来たとき、観光がてら月下老人に連れて行ってあげられないかしら」と私に頼んでくるほどです。

私は快く引き受け、下見を兼ねて自分でも一通り参拝してみました。私の参拝コースが最良だとは言えませんが、あわせて飲食や観光もできるように組んでみましたので、多く

の外国人旅行者の方々にもご満足いただけるはずです。

数年前、台湾の習俗である「月下老人の正しいお参り方法」をまとめたYouTube動画が大きな話題となり、制作者は一躍人気者になりました。以来、「どうすれば理想の相手に巡り会えるのか」といった話題が熱を帯びて語られるようになりました。

月下老人は愛と縁結びを司る神様で、賢明な年長者の姿で現れます。そのため、良縁をどう願い求めるか——そこには深い奥行きがあり、一つの学びの世界が広がっているのです。



恋愛成就の神様

月下老人
げっかうじん

海澄敬宇六龍道也封



霞彩臨門ハ蜡配天赫濯

月下老人に願いをかける前に、理想の恋人に求める条件を10個書き出すのがおすすめです。誠実さ、優しさ、勇気といった内面から、外見の好みまで、具体的なリストを用意しておけば、神様にも自分にも願いが伝わりやすくなります。

なぜ10個なのか。条件が多すぎれば神様も自分も覚えられないし、少なすぎると曖昧で具体性に欠け、月下老人もあなたにぴったりの相手を選びづらくなってしまうかもしれません。

すでに好きな相手がいるなら、月下老人にその人と結ばれるようにとお願いしてもいいです。台湾の伝説では、人の小指には一本の赤い糸が結ばれており、それが未来のパートナーにつながっているといわれています。

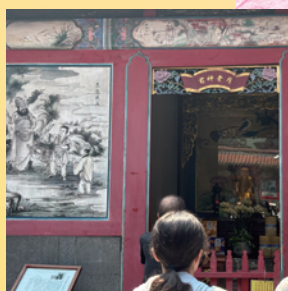
ます。この伝説が台湾華語で「牽線（線結び）」という表現の由来であり、参拝者が月下老人から赤い糸を授かるうと願う所以でもあります。赤い糸を持ち歩けば、良縁を早く結べると信じられているのです。

供物には花や甘い菓子が喜ばれます。恋の甘さを象徴するもので、他の神様にお参りしたあとに供物を月下老人の前に供え、心を込めて願えばよいです。手ぶらでも問題はありませんが大切なのは真心です。お供え物を用意したければ、廟の周りの商店や屋台にも売っていますし、霞海城隍廟のように参拝セット（キャンディーや金紙（紙銭）入り）を用意している場所もあるので、廟の職員に声をかければ手に入ります。

♡♡ 恋のチェックリスト 月下老人に祈る前に



月老金身（金色の月下老人像）



月下老人の参拝入口



龍山寺門前の滝

♡♡ 慌てずに、一歩ずつ、
月下老人にお参りする作法

台北で月下老人を祀る廟といえば、霞海城隍廟と龍山寺が有名です。ただし、どちらも月下老人だけをまつる廟ではありません。霞海城隍廟は城隍爺と城隍夫人を主神とし、龍山寺は観音菩薩を中心に、閻聖帝君や媽祖など数多くの神々が並びます。

参拝の作法としては、まず天公（玉皇大帝）を拝み、次に主神、その後には他の神々、最後に月下老人という順で回ります。祈りを捧げる際には自分の名前、生年月日、住所を伝え、誰が願っているのかを神様に知っていただきます。

龍山寺には香炉はあるものの、線香をあげてお参りすることは現在では行われていません。両手を合わせ、静かに祈るだけでいいです。廟の中には参拝順序の案内があり、また霞海城隍廟や龍山寺のスタッフは日本語や英語に堪能なので、分からないことがあれば、遠慮なく尋ねてみてください。

参拝後にお土産を探すなら、龍山

寺の売店がおすすめです。精緻な御守や数珠のほか、地元の社会的弱者支援と協力した特産品も並んでおり、旅の思い出にふさわしい一品が見つかるでしょう。

霞海城隍廟では、参拝後に境内広場でふるまわれる「結縁熱甜茶（縁結びの熱々甘いお茶）」もお忘れなく。熱いからといって口で吹いて冷ましてはいけません。縁を吹き飛ばしてしまうとされているからです。待つ間に隣の人と話し込んで、そのまま恋が始まったという話も伝わっています。まさに月下老人が結んだ赤い糸なのでしょう。

月下老人は恋愛だけでなく、あらゆる人の縁を司ります。ある時期には、ファンたちが「推しのコンサートチケットを当てたい」と願って訪れるのが流行したこともありましたが、実際に当選し、喜びいっぱいでお菓子やケーキを持ってお礼参りをした友人が何人もいました。



結縁熱甜茶（縁結びの熱々甘いお茶）

♡♡ 願いが叶ったら——
月下老人に感謝を

恋が成就したとき、結婚が決まったとき、ゲームで推しを引き当てたとき、あるいは好きなアーティストのコンサート、握手会やファンミーティングのチケットが手に入ったとき、どんな形であれ願いが叶ったら、必ず月下老人に報告し、「喜餅」や甘いお菓子を供えて感謝を伝えるのが礼儀です。月下老人に愛や縁が未永く続くよう守っていただくためです。ただし注意すべきは、台湾の気候は暑いので、供え物に不向きな生菓子や冷蔵が必要なお菓子は避けることです。神様に召し上がっていただく間お供えしておく習わしがあるため、その間は廟の周りを散策してきましょう。

霞海城隍廟の周辺には、古き良き街並みが残る大稻埕や布で賑わう永樂市場があります。クラシックな郵便局から友人へハガキを送ったり、永樂市場のアーケードで杏仁露や緑豆露を味わったりするのも楽しいです。

龍山寺の周辺もまた、台北屈指のグルメエリアです。夏の暑さに疲れを少し足を延ばして、ミシュラン・ビブグルマンに選ばれた鹼粽氷（アルカリちまきかき氷）や割包を味わえば、心もお腹も満たされるでしょう。そして最後に大切なのは、必ず廟へ戻り、供えたものを持ち帰ることです。忘れてしまうと、廟の人々が困ってしまいますので。



萬華の名物のひとつが、手作りのランタンです。



Red String

神さまは鏡のように、祈る人の心をそのまま映し出します。だからこそ最も大切なのは真心です。望みを具体的に描くのは良いことですが、外見や財力だけにこだわらず、誠実さ、心の響き合い、そして縁を大事にすべきでしょう。もし願いが叶ったなら、廟へお礼参りに行くことをお忘れなく。それは月下老人への敬意であると同時に、再び台湾を旅するすばらしいきっかけにもなるのです。

月下老人はいつも柔和な笑みを浮かべています。その前で線香を掲げたり、両手を合わせて祈ったりしているのは、恋に胸を痛める人々ばかりです。そんな人々の小さな祈りの声聞きながら、ふと想像しました。もしロミオとジュリエットが手をつないで月下老人に祈りを捧げていたら、二人の運命はもう少し穏やかに展開し、あの物語も思い出すたびに切なくなる悲劇ではなく、少しは救いを感じさせるものになっていたのかもしれません。

それは、台湾人の気質の一端なのではないでしょうか。人々はいくつも物語の最後に幸せな結末を願ってしまします。だからこそ月下老人は、まるで家の祖父のように親しみやすい姿で現れ、穏やかな笑みを浮かべながら、一筋一筋の赤い糸をそっと結んでいくのです。



願いごとについて
私がお伝えしたいのは……

Fico



龍山寺の売店

台湾恋愛マップ ———— 月下老人廟セレクション

台北

霞海城隍廟 シャーハイ チョンホアン ミャオ

国際的に有名・スピード良縁 ♥

龍山寺 ロンサン スー

縁結び・悪縁切り ♥

指南宮 ジーナン ゴン

悪縁切り・腐れ縁を断つ ♥

台中

樂成宮 レチェン ゴン

復縁にご利益 ♥

彰化

鹿港天后宮 ルーガン ティエンホウ ゴン

恋愛を深める ♥

南投

日月潭龍鳳宮 ニチゲツタンロンフォン ゴン

♥♥♥ 月下老人を主祭神

台南

祀典大天后宮 スーディエンダー ティエンホウ ゴン

良縁・恋愛成就 ♥

祀典武廟 スーディエンウー ミャオ

恋愛を深める ♥

大観音亭 ダーグアンインティン

復縁にご利益 ♥

重慶寺 チョンチン スー

運氣転換 ♥

(府城四大月老)

高雄

關帝廟(武廟) グアンディー ミャオ (ウー ミャオ)

良縁結び ♥

型に縛られず

百年続いたブランドのつくりかた



2004年「シティーテーマー錦源興プリント創作展」がタイ・バンコクの Matdot Art Center で開催されました。



↓
 どうも、子興といいます！台南の布地の老舗「錦源興」の四代目主人です。この肩書きから、小さいころからお店で布と戯れてきたと思われるかもしれませんが、そうではありません。

祖父の張相が1923年に台南の神農街に開いた「錦源興染物工場」はかつて台南で最大の規模を誇っていました。母の記憶では、子どものころ家の天井には水槽や染め物を干す竹竿がいつばいに並べられていて、それが今でも目に焼きついていそう。ところが1990年代に輸入ものとファッションアパレルによって市場が一変し、布地を取り扱うのが年々難しくなっていました。母の弟が家業を継いでいましたが、時代の波には抗えず2012年に廃業することになりました。

小さいころから絵を描くのが大好きだった私は、大学院を出て友人とデザイン会社を立ち上げました。もちろん家業が布地を扱う店であることは知っていましたが、母方であるため、店の中で育ったわけではありません。実のところ、そのころ家業を継ぐなんて考えたこともありませんでした。それが2018年に家族と日本の京都を訪れたところ、たかさんの老舗ブランドが斬新な形で百年の思

いを伝承しているのを見てハッとしました。「おお。それなら錦源興も何かできることがあるのでは？」と。そして決断の決め手となったのは、起業してから初めてまとまった蓄えができたときに、台南中西区の「鶏朝」といわれる地域の廃墟になったことでした。その瞬間、ピンときて、もしかするとここが錦源興の再生の地となるかもしれないと思って感動に打ち震えました。

「台南発の百年の老舗布地店」が「印花で台湾を語る」ようになるまで

錦源興が2020年に再出発したとき、「台南発の百年の老舗布地店」というベタなキャッチフレーズを考えました。これで家族の物語と台南のイメージを一発で表せると思ったのです。グラフィックデザインが専門なので、すぐに歴史と地元文化を「印花」パターン柄に取り入れることにしました。錦源興の再出発の一步は「街のアイコン」シリーズのパターン布になりました。カラスミ、閩廟麵（台南名物のモチモチ麺）、茄苳袋（漁師網バッグ）など、どれもが台南という街の思い出と台湾の暮らしの中の文化を担っ



ヨウズーシン
楊子興

台南で百年続く老舗の布地専門店、錦源興Gimgoanheng。その四代目はパターン柄のデザインとアート展の企画を得意としています。2020年、将来のことを考えてふるさとの台南に戻り、家業であった布地の商いをライフスタイルブランドへと生まれ変わらせ、地元の文化とアートデザインの融合に取り組んでいます。

雑誌『FOUNTAIN 新活水』とは

FOUNTAIN 新活水の毎号のテーマは社会の脈動と密接に関連しています。文化的観点から、地域・境界・世代を超えて交差する精神を強調し、重要な問題や現象の詳細な討論と発掘を行っています。鮮烈な視覚的美学が魅力の雑誌は文化的対話を構築するための重要なプラットフォームになっています。

ています。そのブランドを立ち上げて二年、キャッチフレーズを「印花で台湾を語る」にあらためました。これはブランドの方向性を定めただけでなく、ある種の決意を表しています。百年の老舗の跡継ぎとして、この大地にある物語を語り継ぐ責任を感じているということです。

台南では20世紀前半から徐々に紡績産業のサプライチェーンが形成されてきました。だから錦源興も地元のメーカーと協力しています。私たちはデザイン、協力先は生産という分業です。これによって工場が海外移転したために仕事がなくなったミシン職人を呼び戻すとともに、イグサを扱う「蘭草工坊」や皮細工の「玩皮高手」などの公益団体とも協力し、布地作り、パターン柄のプリント、裁断、縫製までのネットワークを整備してきました。

百年前に想像できなかったことが、今現実になった

そして「廃墟になっていた三坪の古民家」ですが、2020年に自費で店舗に改修し、地域で唯一、建物全体を参観できる老舗商店にしました。三階はクリエイターが無料で使える展示スペースです。そして一年後には隣人のお年寄りたちや、樹徳科技大学の張怡豪先生と一緒に『不潮怎麼叫雞朝（スタイリッシュじゃない）』という街の文化をテーマにした展示を行いました。次の年には台南市文化局の後押しを得て、街の人々のインタビュをメインにしたポッドキャスト「小南生：小老闆的台南創業生活（台南生まれの男子：若社長の台南起業ライフ）」の配信を始めました。

錦源興では今やプリント柄のグッズを販売するだけでなく、国内外のブランドとコラボし、プリント柄のライセンスなどより多くの可能性を開拓しています。毎年利益の一部を台湾文化推広基金に寄付するとともに、「錦源興アート助成プロジェクト」を通じて三階スペースのアート展示をサポートしています。また「街のアイコン」シリーズによる世界各地でのプリント柄の展示で台湾の文化を発信し、地元の工芸と文化の記憶をより多くの人に見てもらいたいと取り組んでいます。

もしも今の錦源興に何か誇れることがあるとしたら、それは代々受け継がれてきた布商売の歴史や、高齢者支援、地元の産業チェーン作りでしょう。それから台湾そのものの奥深さからもらった、つまりこの大地に育まれてきた語り尽くすことのできない物語、それがあってこそ私たちが既成の型に縛られない百年のブランドをつくることができたということでしょう。

かつて廃墟同然だった古民家が、改修を経て「錦源興」ブランドの象徴的な空間として再生されました。



ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾

ビビビ台湾



したいことぜんぶ

ビビビ台湾





- ◆各種特色のあるテーマルーム
- ◆2,000坪以上の温泉パーク
- ◆屋内外の様々なレクリエーション施設
- ◆豊かな生態系が、「土地と共生し、現地と共に歩む」

天籟 陽明山
渡假酒店
Yangmingshan Tien Lai Resort & Spa



陽明山国家風景区に隣接し、青々とした陽明山の山々、大屯山の白硫泉脈、金山のローカル文化といった唯一無二の環境に恵まれた、台湾最大かつ最高級の温泉リゾートです。

陽明山
天籟
渡假酒店



団体ご予約 / 専任者プランニング

お問い合わせ | 02-2392-2777 ご予約電話番号 | 02-2408-0000 マーケティング業務部台北オフィス

2025

台北

More Fun!

More Taipei!

楽しさ色々

大阪万博のついでに、台北に行こう！

本場の小籠包

大阪万博のチケットで、 台北旅行が おトクに！



TAIPEI 観光傳播局
Department of Information and Tourism

AD

中間淳太